

会津若松市 産学官民連携による オープンデータの取組

2015年7月23日

会津若松市 総務部情報政策課 藤井淳

※このスライドはLibreOffice Impressで作成しています！

会津若松市のご紹介



- **地理**
福島県の西部に位置しており、磐梯山や猪苗代湖など豊かな自然に囲まれた、自然景観に恵まれたまちです
- **歴史**
古事記や日本書紀などにも「相津」と記され、東と北の出会う重要な接点として位置づけられています。また、会津は、戊辰の戦いによって武家支配が終焉を迎えるまで、中央と地方(奥州)との政治勢力が拮抗する一大拠点でした。
- **大学**
平成5年開学の「会津大学」
先進のソフト・ハードウェア・サイエンティスト養成
コンピュータと英語教育に特徴
- **産業**
国内有数の観光産業
IC関連の最先端産業
酒、漆器等の地場産業
IT関連産業の創設



本日の内容

- ・ 自己紹介
- ・ 本日のテーマ
- ・ 会津若松市の取組経過
- ・ オープンデータ推進のポイント
- ・ 地域との関わり、データ活用事例の創出について
- ・ まとめ





本日のテーマ

**地域のコミュニティや行政が一体となって、
産学官民によるイノベーションと
新しい地方自治を実現していこう！**





会津若松市の取組経過

- 2012年7月
市公式ウェブサイト上でのデータ公開を開始
 - 人口統計（住基人口）、公共施設マップ
- 2013年6月
総務省「ICT街づくり推進事業」を受託、事業実施
 - オープンデータ基盤の構築（DATA for CITIZEN）
- 2013年11月
庁内検討チーム活動開始
 - 庁内職員による勉強会、各種イベント参加
- 2014年～
各種実証事業やオープンデータコンテストの実施



会津若松市のオープンデータ

- ・ 各種統計データ
 - ・ 市内イベント情報
 - ・ 市内観光史跡情報
 - ・ 市内の公園と公園内の施設・遊具等の位置情報
 - ・ 消火栓・防火水槽位置情報
 - ・ AED整備状況
 - ・ 市内有料駐車場情報
 - ・ 人口メッシュデータ（年齢3区分・250mメッシュ）
 - ・ 地域食状況調査結果（アンケート、BDHQ※1）
- ※1 簡易式自記式食事歴法質問票

Etc.....





オープンデータ推進のポイント

オープンデータ推進の5ヶ条

1. 庁内ルールを作る

「何を公開すればいいのかわからない」「本当に公開していいの？」

2. 恩を売りまくる（だって総務部だもの）

3. データの活用事例を見せる

4. これまでの仕事のやり方とは異なることを説明する

5. どうしても進まないところは後回し



オープンデータ推進に関する基本方針

＜会津若松市オープンデータ推進に関する基本方針＞

平成 28 年 1 月 25 日決裁

1. 策定の背景・趣旨

国内全体で急速な高齢化と人口減少が進むなか、自治体の税収は減少傾向にあるにもかかわらず、公的サービスに対する住民のニーズは拡大・細分化し続けている。しかしながら、自治体の財源や人員には限りがあるため、現実的には全てのニーズについて自治体側だけで対応することは難しい。

そのような中で世界に目を向けると、「オープンガバメント」「オープンデータ」の普及とともに「シビックテック」の概念が台頭し、政府や自治体に頼らず住民自らの手によって必要なものを作り出すという気運が高まっている。

本市ではこのような状況を踏まえ、オープンデータの推進による市政の透明性の向上や経済活性化、また市民や地域コミュニティと一体となって地域課題の解決に取り組む「新しい公共」を推進し、「スマートシティ会津若松」の実現に寄与することを目的として、オープンデータの推進に関する基本的な方針を定めるものとする。

2. オープンデータ推進の目的・基本原則

オープンデータ推進にあたり、本市が定める目的及び推進にあたっての基本原則を次のとおり定めるものとする。

(1) オープンデータ推進の目的

① 住民サービスの向上

行政機関が掌務で作成しているデータは市民の共有財産として活用されるべきであり、オープ

＜会津若松市オープンデータ公開・運用基準＞

平成 28 年 1 月 25 日決裁

会津若松市オープンデータ推進に関する基本方針に基づき、会津若松市オープンデータの公開・運用に関する基準を定める。

1. オープンデータの公開手続

(1) オープンデータとしての公開方法

市が保有する情報をオープンデータとして公開する場合、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの表示により二次利用の際のルールを示すものとする。なお、データに付与するライセンスは原則として自由度の高い「CC BY」を選択するものとし、CC BY 以外のライセンスを適用する場合はその理由を明示する。

なおデータの公開は、原則としてそのデータを保有・管理する所属が行うものとする。

(2) オープンデータの蓄積方法

市が保有する情報をオープンデータとして蓄積・利活用するための基盤として「DATA for CITIZEN (<http://www.data4citizen.jp/>)」(以下「オープンデータ公開基盤」という。))を整備し、データを蓄積するものとする。

オープンデータ公開基盤で取り扱いができない形式のデータの公開・活用の推進にあたっては本市ウェブサイト上への蓄積を基本とし、「LinkData (<http://linkdata.org/>)」など市のオープンデータ公開基盤以外のサービスも積極的に活用することとする。

基本方針の策定 → 各課への保有データ一斉照会
※文書があるだけで、庁内各課の安心度が全く違う



オープンデータ推進の5ヶ条

1. 庁内ルールを作る

「何を公開すればいいのか分からない」「本当に公開していいの？」

2. 恩を売りまくる（だって総務部だもの）

「これってオープンデータにしたほうがいいよね?」「何か協力できることない?」

3. データの活用事例を見せる

4. これまでの仕事のやり方とは異なることを説明する

5. どうしても進まないところは後回し



会津若松市のオープンデータ

- ・各種統計データ
- ・市内イベント情報
- ・市内観光史跡情報
- ・市内の公園と公園内の施設・遊具等の位置情報
- ・消火栓・防火水槽位置情報
- ・AED整備状況

担当課が自主的に公開
したデータ



- ・市内有料駐車場情報
- ・人口メッシュデータ（年齢3区分・250mメッシュ）
- ・地域食状況調査結果（アンケート、BDHQ※1）

※1 簡易式自記式食事歴法質問票

Etc.....



オープンデータ推進の5ヶ条

1. 庁内ルールを作る

「何を公開すればいいのか分からない」「本当に公開していいの？」

2. 恩を売りまくる（だって総務部だもの）

「これってオープンデータにしたほうがいいよね?」「何か協力できることない?」

3. データの活用事例を見せる

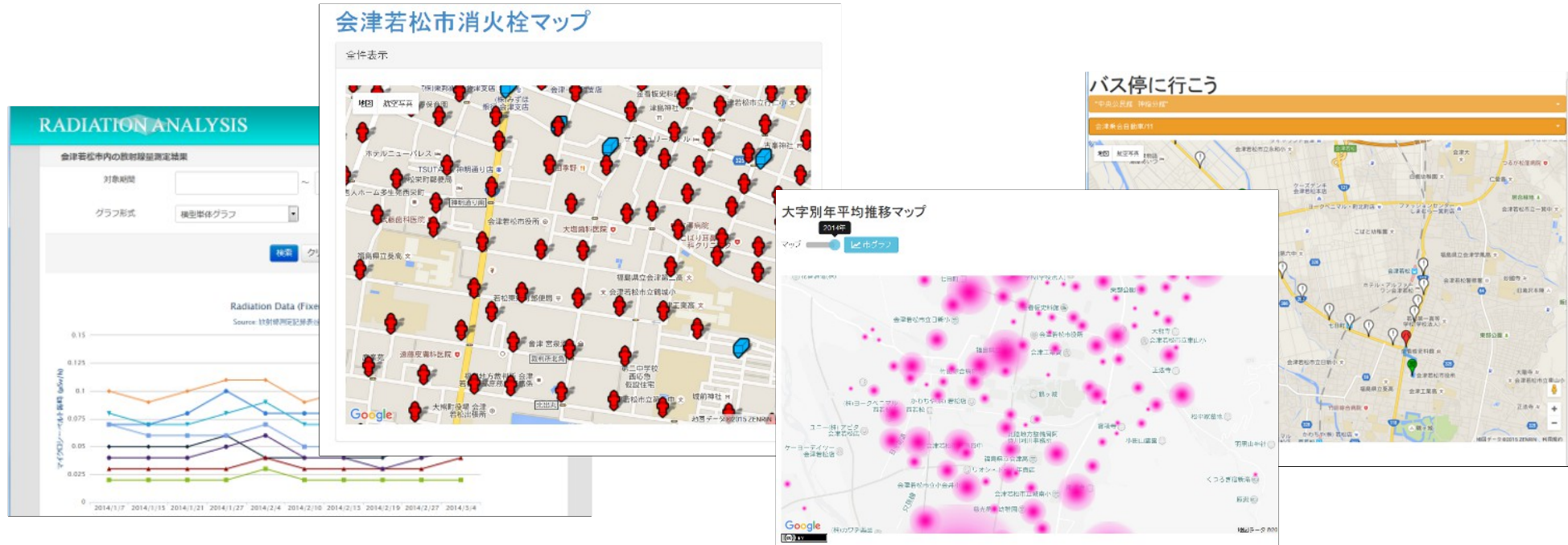
「このアプリいいね!」「うちのデータもこうやって見せられないかな?」

4. これまでの仕事のやり方とは異なることを説明する

5. どうしても進まないところは後回し



データの活用事例を見せる



様々な活用方法を提示し、「うちもこういうふうに見せたい」
「やってみたい」という気持ちを引き出す
(地域の方の協力が重要！)



オープンデータ推進の5ヶ条

1. 庁内ルールを作る

「何を公開すればいいのかわからない」「本当に公開していいの？」

2. 恩を売りまくる（だって総務部だもの）

「これってオープンデータにしたほうがいいよね?」「何か協力できることない?」

3. データの活用事例を見せる

「このアプリいいね!」「うちのデータもこうやって見せられないかな?」

4. これまでの仕事のやり方とは異なることを説明する

「なぜオープンデータ?」「公開したらどうなるの?」「費用対効果は?」

5. どうしても進まないところは後回し



これまでの行政の仕事との違い

行政事務はそのほとんどが「オペレーション」に分類されるが、オープンデータは「イノベーション」に分類される。

▼オペレーション

- ・ 決まったことを決まった手順で効率よく進める
- ・ 成果が出て当たり前。ミスや失敗が許されない
- ・ かけた時間と成果が比例する
- ・ 論理と結果で進める

▼イノベーション

- ・ 何も決まっていない。スーパー手探り
- ・ 9割くらいは失敗する。かけた時間と成果が比例しない
- ・ 熱意とマインドで進める

どちらの仕事も組織にとって必要だが、仕事の大半はオペレーションのため、オペレーションの価値観でイノベーションが評価されがち。



オープンデータ推進の5ヶ条

1. 庁内ルールを作る

「何を公開すればいいのか分からない」「本当に公開していいの？」

2. 恩を売りまくる（総務部ならでは）

「これってオープンデータにしたほうがいいよね?」「何か協力できることない?」

3. データの活用事例を見せる

「このアプリいいね!」「うちのデータもこうやって見せられないかな?」

4. これまでの仕事のやり方とは異なることを説明する

「なぜオープンデータ?」「公開したらどうなるの?」「費用対効果は?」

5. どうしても進まないところは後回し

「公開したら問題が起こるかも・・・」





地域との関わり、データ活用事例の
創出について

オープンデータ推進の5ヶ条

1. 庁内ルールを作る

「何を公開すればいいのか分からない」「本当に公開していいの？」

2. 恩を売りまくる（総務部ならでは）

「これってオープンデータにしたほうがいいよね?」「何か協力できることない?」

最も大事!

3. データの活用事例を見せる

「このアプリいいね!」「うちのデータもこうやって見せられないかな?」

4. これまでの仕事のやり方とは異なることを説明する

「なぜオープンデータ?」「公開したらどうなるの?」「費用対効果は?」

5. どうしても進まないところは後回し

「公開したら問題が起こるかも・・・」



地域と関わっていくための3ヶ条

1. 来る者拒まず

- ・「こういうことやりたいんですけど、どうでしょうか？」「分かりました」
 - ・「こんな話があるんですが、やってみませんか？」「分かりました」
 - ・「取り組みについて講演してください」「分かりました」 ← 今ここ
- 大量の「情報」「つながり」「事例」「経験値」が手に入る！（大量の仕事も）

2. 仕事とコミュニティ活動を融合させる

- ・良い意味での公私混同
- ・「フラット」&「双方向」の意識
- ・地方自治の担い手となるプレイヤーの発見

3. （結果として）地域の運動量を増やす

- ・産学官民全員参加による地方自治



行政の保有データを積極的に提供

- ・ オープンデータとして公開
→ アプリ開発や、行政課題について考える材料を提供
- ・ データ分析授業へ、市の保有データを匿名化し提供
→ サンプルデータではなく実データを使った実践的な授業に



市のオープンデータ・匿名化データの提供
→ 分析による示唆を市へフィードバック



現状と課題を把握しより深く分析するため、市職員に対し学生がヒアリング



地域のコミュニティ（CODE for AIZU）に行政職員がメンバーとして参加

- ・ データや課題、状況の共有、意見交換
→ 行政の課題共有や、成果物への評価・活用が進みやすくなった



市のごみ処理基本計画策定にあたり、
地域のごみ問題について意見交換



雪国最大の課題「除雪」について事例
共有・意見交換



データ活用促進のためコンテストを開催

・地域で活動している学生やコミュニティの成果発表の場に。庁内にもデータ活用のイメージを伝えられた

平成27年度 会津若松市オープンデータコンテスト

作品募集!



募集期間

平成27年11月12日(木)まで

応募資格

どなたでも応募できます(グループでの応募も歓迎!)

応募部門

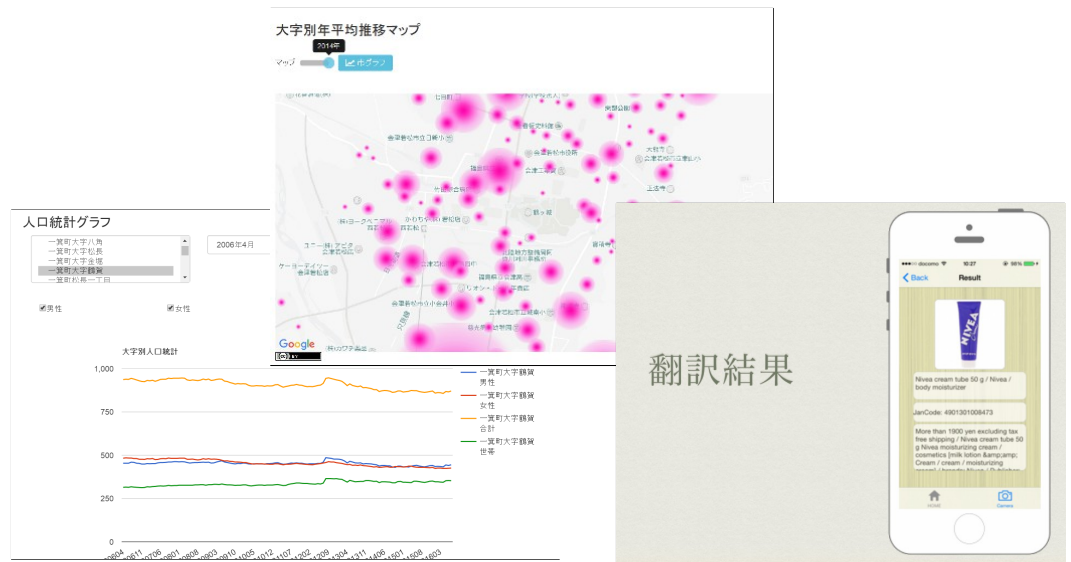
以下の4部門において、部門別に作品を募集します。

1. アプリ・サービス部門
⇒会津若松市の公開データを活用したアプリ・サービス
2. データ部門
⇒あると役立つようなデータの収集・作成
3. アイデア部門
⇒こんなアプリ・サービスがあったらいいのに!というアイデア
4. 活動部門
⇒オープンデータの普及・啓発に貢献する活動

最優秀賞は
賞金20万円!



平成26年度から2年連続で、市独自にオープンデータコンテストを開催



26年度、27年度合わせて100件以上の作品応募。具体的なデータ活用の事例として、庁内での説明・周知にも活用

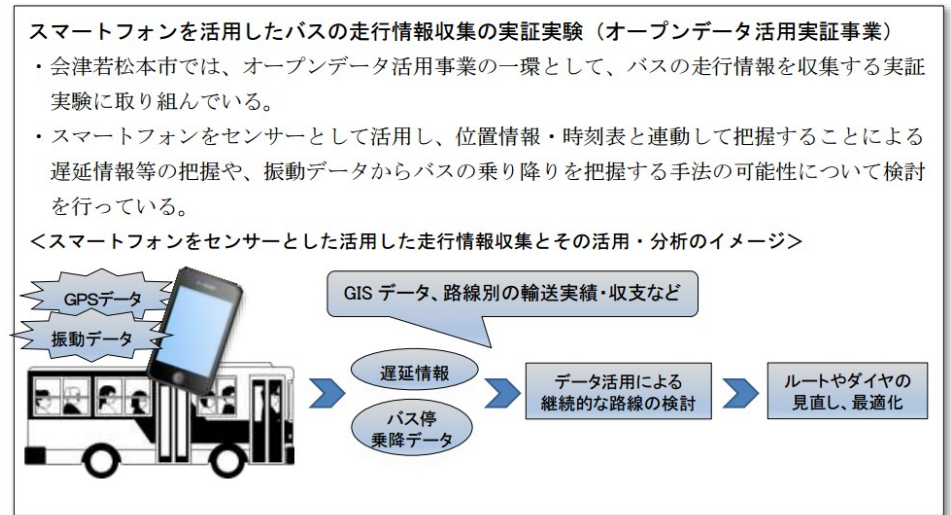


オープンデータ活用の実証事業

- ・ 様々なデータの活用モデルを実証
 - 地元ベンチャー企業の実サービスにつながった
 - 実証内容を市の公共交通計画の策定に活用



災害対応クラウド電話ポータル TEL子ちゃん市との実証実験を経て、正式サービスとしてリリース



会津若松市地域公共交通網形成計画に、データの収集・活用モデル案として掲載



市の情報部門（情報政策課）を大学の施設内に移転

さらなる連携強化のために、**物理的な距離も縮めてみた！**

→学生や大学関係者との情報共有や、開発の状況確認がスムーズ（同施設内で学生が開発している様子まで分かる）



↑①



②↓



情報政策課執務室を大学施設へ移転

①旧：本庁舎プレハブ内

②新：会津大学先端ICTラボ（通称：LICTiA）

高校生・大学生の活動・開発成果報告会

@先端ICTラボ会議スペース

（情報政策課執務室から徒歩5秒）





まとめ

オープンデータ推進の5ヶ条

1. 庁内ルールを作る

「何を公開すればいいのかわからない」「本当に公開していいの？」

2. 恩を売りまくる（だって総務部だもの）

「これってオープンデータにしたほうがいいよね?」「何か協力できることない?」

3. データの活用事例を見せる

「このアプリいいね!」「うちのデータもこうやって見せられないかな?」

4. これまでの仕事のやり方とは異なることを説明する

「なぜオープンデータ?」「公開したらどうなるの?」「費用対効果は?」

5. どうしても進まないところは後回し

「公開したら問題が起こるかも・・・」



地域と関わっていくための3ヶ条

1. 来る者拒まず

- ・「こういうことやりたいんですけど、どうでしょうか?」「分かりました」
 - ・「こんな話があるんですが、やってみませんか?」「分かりました」
 - ・「取り組みについて講演してください」「分かりました」 ←今ここ
- 「情報」「つながり」「事例」「経験値」が手に入る! (大量の仕事も)

2. 仕事とコミュニティ活動を融合させる

- ・良い意味での公私混同
- ・「フラット」&「双方向」の意識
- ・地方自治の担い手となるプレイヤーの発見

3. (結果として) 地域の運動量を増やす

- ・産学官民全員参加による地方自治



**地域のコミュニティや行政が一体となって、
産学官民によるイノベーションと
新しい地方自治を実現していこう！**





ご清聴ありがとうございました